

相談
受付中

企業勤労者の「働く」が変わる

理学療法士と一緒に、
作業動作・環境等を見直してみませんか？



対象

- 腰痛や肩こりなどの身体不調
- 作業環境の見直し
- 生活習慣病
- メンタルヘルス
- 復職・就労支援
- 他

理学療法士の強み/メリット

理学療法士とは 病気やケガ・事故などで身体が不自由になった人に対し、社会生活を送れるように回復に必要な治療を行う“動作の専門家”

職場全体の作業環境、作業姿勢の観察から筋骨格系の負担を評価し、かつ改善することができます。

疾病に関する知識を理解した上で、身体機能を評価・改善することができます。

運動療法を用いて、心身ともに健康な体作り個々に提案できます。

安全な移乗動作／介護動作の指導ができます。

愛知県理学療法士会
までご相談ください。
TEL&FAX:052-972-6295

ホームページはこちら
<https://www.aichi-pt.jp/>

メールはこちら
info@aichi-pt.jp

主催：公益社団法人 愛知県理学療法士会 産業保健事業部
協力：日本産業理学療法研究会



いつまでも自分らしくくらすを応援

ぴたつ!と あいち

2025
第22号

愛知県理学療法士会広報誌

特集

理学療法士の スポーツへの関わり





Top Message

代表理事メッセージ

公益社団法人 愛知県理学療法士会
代表理事 三宅 わか子

我が国は、約800万人の団塊の世代が75歳となる令和7年(2025年)を迎え、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という超高齢社会に突入しました。令和22年(2040年)に向けて、65歳以上の高齢者の人口は一貫して増加する見込みであり、中重度の高齢者や医療・介護双方のニーズのある高齢者を中心にリハビリテーションサービスの需要は更に高まることが想定されています。

具体的には、医療保険で実施する急性期・回復期のリハビリテーションから、介護保険で実施する生活期リハビリテーションへの切れ目のないサービス提供体制の構築、地域共生社会の実現が求められています。これらの連動は「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけ、県民の日常生活の活動を高め、家庭や地域・社会での役割を果たしかつ、一人ひとりの生きがいや自己実現を支援する生活の質の担保(QOLの向上)を目指すことを実現します。また現在では、リハビリテーションの対象は高齢者だけでなく、医療的ケア児支援、児童・障がい児の発達支援、障がい者(児)スポーツ支援、学校保健支援、産業予防支援に至るまで多岐に渡っています。国民皆保険や優れた保健・医療・介護システムの成果により、世界最高水準の平均寿命を達成し人生は100年時代とも言われていますが、健康で長生きするためには幼少期から継続した身体づくりと疾病や怪我の予防、高齢期に向けた介護予防に至るまでシームレスな健康づくりが必要です。日本社会では社会人になると仕事優先で年まで働き続ける傾向があり、身体づくりやメンタルヘルスといった「健康」を維持するための支援は十分ではありません。

このような背景から、加齢に伴って生じる心身の変化による疾病等により介護を要する状態となる高齢者の増加は避けられない現実がありますが、その人らしい自立した日常生活を営むことができるよう、高齢者や障がい者(児)の社会参加や地域の人々が元気で暮らす社会を作れるよう、「地域包括ケア推進、いきいき生活フェスタの開催、スポーツ障害予防・支援、各種予防講座の開催、小児領域地域リハビリテーション連続講座、こどもの福祉機器展(チャレンジドフェア)」等の社会活動を毎年計画・実施しています。2026年にはアジア最大のスポーツの祭典、アジア競技大会・パラ競技大会が愛知県を中心に開催される予定であり、我々理学療法士もアジアを代表するアスリートに、怪我をしない最高のパフォーマンスを発揮していただくために、大会支援に携わる理学療法士の育成を進めています。

また近年、記憶に新しいいくつかの災害においても発災当初から医療・福祉等の専門職の派遣により被災者支援に取り組んできました。引き続き、平時からの災害チームの体制整備・人材育成等に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、社会情勢と県民のニーズに応えるべく土会活動へ取り組みながら、理学療法が科学的根拠に基づく技術として確立し、県民の健康、疾病や障害の回復、介護予防に寄与することをお約束し、リハビリテーションの専門職としての立場を十分に確立していく所存でありますのでどうぞよろしくお願いいたします。



理学療法士の スポーツへの関わり

Physical Therapist
Involvement in Sports

スポーツには、生涯スポーツから競技スポーツ障がい者スポーツまで様々な形があり、子供から高齢者まで幅広い年齢の方が楽しんでいます。
愛知県理学療法士会では、競技のサポートや傷害予防、サポート人材の育成など、スポーツに関わる全ての人を支援することを目的として、活動を行ってきました。以下にこれまでの活動の一部を紹介します。



ワールドカップラグビー サモアチームコンディショニングサポート

「ラグビーワールドカップ2019日本大会」では、サモアチームの愛知県滞在中のコンディショニングサポートを行いました。



中日本フェンシング大会サポート

2021年・2022年に中日本フェンシング選手権大会が愛知県で開催され、救護スタッフとしてサポートを行いました。



愛知県高等学校野球連盟サポート

2010年から愛知県高等学校野球連盟(高野連)春季大会のメディカルサポートを行っています。





障害予防教室

各地域のスポーツ選手、指導者、保護者を対象に「スポーツ障害予防教室」を実施しています。



スポーツ理学療法研修会

理学療法士を対象にスポーツを行う方々をサポートする人材育成を行っています。



オリンピック・パラリンピック 競技大会事前研修会

オリンピック・パラリンピックのサポートスタッフとして参加することとなった愛知県理学療法士会の会員を対象に実技等の研修会を行いました。

日本ボッチャ選手権大会サポート

日本ボッチャ協会コンディショニング部の理学療法士のサポートを実施しています。

公認中級パラスポーツ 指導者養成講習会

愛知県内の障がい者スポーツ(パラスポーツ)振興に貢献できる人材育成を目的として、公認中級パラスポーツ指導員養成講習会を開催しています。内容は講義だけではなく実技として卓球やフライングディスク、ボッチャ、車椅子バスケットなどパラスポーツの体験講習を行っています。



いきいき生活フェスタ

愛知県理学療法士会では、毎年県民向けのイベントを主催しています。その中で、お子さんや、お年寄りまで幅広い世代の方々に、車いすバスケットや、ボッチャ、フライングサッカーなどを体験していただき、パラスポーツの普及活動を行っています。



国際競技大会に向けた取り組み

2026年には愛知・名古屋アジアパラ競技大会が開催されます。理学療法士(愛知県理学療法士)は、大会組織委員会の依頼を受け、活動することになります。そのための準備を進めています。

スポーツ分野に関わる理学療法士

Physical Therapist

Involvement in Sports



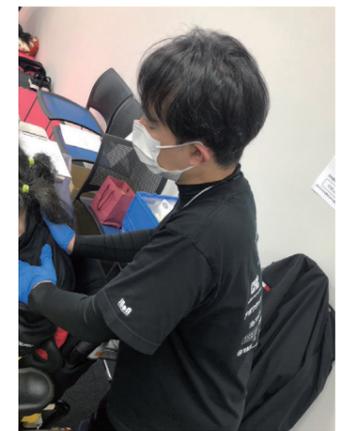
私たち理学療法士の活動領域は、病院での治療だけでなく、スポーツ分野へと大きく広がっています。

私自身、大学病院におけるリハビリテーションに携わる一方で、パラスポーツの現場でも活動しています。

2025年1月に開催された日本ボッチャ選手権大会において、理学療法の視点から選手一人ひとりのパフォーマンス向上をサポートする貴重な経験をしました。

■当日の会場での活動

私達の活動は、競技会場での選手の動きや準備段階の観察から始まります。試合中の動作を理解し、選手個々の特性に基づいて、適切なケアを行います。試合前後のコンディションに応じて、選手と共に最適な対応策を迅速に考え、実行することが求められます。



Q. 現在どのような分野で仕事をされていますか？

A. 大学病院で新生児集中治療室(NICU)や新生児回復室(GCU)の患者、および小児がん患者などを対象とした小児リハビリテーションを主に担当しています。

Q. 現在の職場の雰囲気について教えてください。

A. 超急性期の患者に向き合う中、チーム全体で協力し合い、日々の業務を通じて疑問を持ち続け、ライフワークバランスを保ちながら研究にも励んでいます。

Q. 今の仕事でやりがいを感じる部分について教えてください。

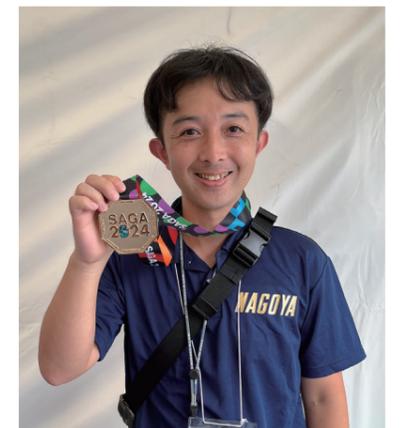
A. 患者の回復を促進できることに大きなやりがいを感じています。患者やその家族の笑顔を見るたびに、理学療法士としての使命感が強まります。

Q. スポーツへの関わりは？

A. 2024年度は全国障害者スポーツ大会にて名古屋市選手団の陸上競技監督を務めました。また、日常的な業務に加え、車いすテニスチームへの参加や、ボッチャのクラシファイアーとしても活動しています。

Q. スポーツ分野に携わりたい方へのメッセージ

A. 理学療法士は、医学的知識と運動学的視点を活かし、アスリートの可能性を最大限に引き出すことができます。病院での臨床経験を基に、スポーツの現場で選手と共に成長できることは、この職業の大きな魅力の一つです。スポーツに関心のある方は、ぜひ一歩を踏み出してください。そこには新たな可能性が広がっています。





理学療法や 理学療法士 を知っていますか？ Physical Therapy



治療・医療としての理学療法は、脳卒中・骨折・切断・高齢者・小児疾患・心臓病・糖尿病などが原因で身体を自由に動かせない障害を持つ「すべての人」が対象

理学療法士の勤務先として、病院(総合病院、一般病院など)、診療所、リハビリテーションセンターなどの医療施設や小児施設(児童福祉施設、養護学校など)、介護保険施設(介護老人福祉施設、老人福祉施設など)、行政機関(県、市町村、保健所、保健センターなど)や教育研究機関(大学、短期大学、専門学校など)など様々なところで多くの理学療法士が働いています。近年では、身体障害者更生相談所、心身障害者福祉センター、訪問看護ステーションなど地域で活躍している理学療法士も増えています。



理学療法士

心身の発達に
心配のある
子どもとその家族を
支援する施設



子どもの笑顔を守りたい!

私が働いているのは心身の発達に心配のある子どもとその家族を支援する施設です。医師や看護師、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師、臨床心理士の他、保育士や保健師といった職種の方も所属しています。医療職だけではなく、子どもに関わる多くの職種で構成されていることが特徴の一つです。『笑顔』がモットーの職場です。みんな子どものことが大好きで、スタッフ同士の距離も近く職種の垣根にとらわれず話ができるので、広い考えを持つことができます。日々子どもたちからパワーをもらえることが、私たちが明るく仕事をできる秘訣です。

理学療法士



在宅医療を
中心に提供する
医療機関



地域に貢献する 在宅医療の仕事!

最近では、入院期間が短くなり、十分に手足に力が入らないまま退院し、自宅で過ごしたり通院したりするケースが増えています。また、高齢や重い障害のために通院が難しくなり、家に閉じこもりがちになる方も少なくありません。そんなときに、自宅へ直接訪問し、生活のアドバイスをを行うのが「訪問リハビリ」です。例えば、ひとりで移動ができない、トイレやお風呂、玄関の出入りが難しいなど、日常生活で困っている場面に対して、訪問リハビリではご自宅に伺い、一緒に解決方法を考えたり、身体が動きやすくなる運動をアドバイスしたりします。実際に暮らしている環境でサポートを行うことで、具体的なイメージが湧きやすく、理解しやすいため、より効果的なリハビリが可能です。訪問リハビリは、利用者の皆さんが自宅で安心して過ごし、これまでと同じような日常を取り戻せるようお手伝いすることを目的としています。

理学療法士は
国家資格です

高等学校卒業
(大検を含む)

養成校

医療系大学(4年制)
短期大学(3年制)
専門学校(3年制)
専門学校(4年制)
特別支援学校
(視覚障害者対象)

理学療法士
国家試験
合格

厚生労働大臣へ申請

理学療法士
免許証取得

スポーツ科学の 発展に貢献!

私は理学療法士として、スポーツ分野でスポーツ現場やジムなどでトレーニングやコンディショニング指導を中心に行っています。(メインの競技は水泳でその他に、トライアスロン、フィギュアスケート、バスケットボール、サッカーなど)トレーナーチームとピラティススタジオに所属しておりますが、基本的にはジュニア選手、高校生～大学生の選手、社会人～プロレベルの選手、マスターズなど趣味レベルの一般の方まで、個人で活動をしています。今後は、世界を視野に入れながら、スポーツ科学の発展とそれを用いて多くの選手の夢に関わっていきたくと思っています。



理学療法士

スポーツジムで
トレーニングや
コンディショニングを
指導する施設



患者さんの 早期自立を目指す!

私は現在、国公立病院の集中治療室の病棟担当として急性期治療に携わっています。ここでのリハビリテーションは、各疾病の治療と並行して展開され、医師をはじめ各職種がチーム一丸となって日々の治療・ケアにあたります。早期からのリハビリテーションにより、集中治療室内でも「自分で食事が摂れる」、「歩いてトイレに行く」等、普段と変わらない生活を取り戻すことが可能であり、そこに理学療法士としてのやりがいを感じています。

理学療法士



国公立病院の
集中治療室の
病棟

